

## 6. 対応方針

### ■対応方針

「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に沿って検討した結果、安威川ダム事業を継続実施する。

### ■決定期理由

#### 【目的別の検討】

##### ・治水の観点からの評価結果

淀川水系神崎川ブロック河川整備計画で目標とする、100年に1度発生する洪水を安全に流下させることを基本として、参考例にある治水方策を基に、安威川ダム以外に26の方策を検討し、「洪水対策が可能か」「実現性」「持続性」「被害軽減効果」の観点等から組合せを含めて5方策を抽出した。

抽出した方策「ダム案」「河道改修案」「河道改修+遊水地案」「河道改修+放水路案」「河道改修+流出抑制案」の5案について、「安全度（被害軽減効果）」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」の7つの評価軸により詳細に比較検討を行った結果、現計画案（安威川ダム案）が優位であると評価した。

##### ・流水の正常な機能の維持の観点からの評価結果

淀川水系神崎川ブロック河川整備計画で想定している目標と同程度の目標を達成することを基本として、国から示された13方策の参考例を基に、安威川ダム以外に17方策を検討し、「実現性」「持続性」「効果の定量的評価」の観点から3方策を抽出した。

抽出した方策「ダム案」「河道外貯留施設（貯水池）案」「ため池利用案」について「目標」「コスト」「実現性」「持続性」「地域社会への影響」「環境への影響」の6つの評価軸により詳細に比較検討を行った結果、現計画案（安威川ダム案）が優位であると評価した。

#### 【安威川ダムの総合的な評価】

「治水（洪水調節）」「流水の正常な機能の維持」の目的すべてにおいて優位となる現計画案（安威川ダム案）が優位であると評価した。

#### 【費用対効果】

「治水経済調査マニュアル（案）平成17年4月」に基づき、費用対効果分析を行った結果、B/Cが17.53となり、事業の投資効果を確認した。

#### 【対応方針】

「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に沿って、治水・利水両面から総合的に評価した結果、最も優位である現計画（安威川ダム）を継続して事業を進める。